

2.5 動物は平均してどのくらい飼育していますか？御社でお取扱いの動物種についてのみ記入をお願いします。

表 2-6 平均飼育期間

動物種	1週間未満 (0も含む)	1週間以上～ 2週間未満	2週間以上～ 1ヶ月未満	1ヶ月以上～ 3ヶ月未満	3ヶ月以上～ 6ヶ月未満
霊長類	1	0	1	0	3
食肉類	5	0	1	2	0
翼手目	2	0	0	0	1
げっ歯類	6	1	3	3	0
ウサギ目	5	1	3	3	0
その他のほ乳類	3	1	1	3	1
鳥類	3	0	5	4	0
爬虫類	4	0	5	4	0
その他の動物	3	0	1	1	1

*回答をもとに、飼育期間を分類した。範囲があるものについては、その中間値でまとめた。また、会社の輸入業務として取り扱っていない動物種であっても、輸入時の支援業務等のみを担当する場合があるため、本問の回答総数は1.3と異なる場合がある。

2.6 動物を飼育するケージや施設に関しては、どのような洗浄・消毒方法をとっていますか？

(●有効回答数 13、()内は回答数)。

新着収容時、消毒液にて消毒、飼育中は毎日ケージを水洗い(1)、ケージは消毒液や洗剤を用いた洗浄・消毒、施設は消毒液の希釈噴霧(3)、ケージは洗剤を用いた洗浄、食器類は消毒(1)、定期的な洗浄、消毒(1)、薬品散布や熱湯消毒(1)、洗剤を用いた手洗い洗浄、施設は消毒液による消毒(1)、消毒液の噴霧(1)、塩素系洗剤の利用(1)、完全洗浄(1)、消毒液を噴霧後、高压洗浄(1)、動物入れ替え時に洗浄後、消毒(1)、

洗浄・消毒に用いるものとしては以下のものが例として挙げられていた。

アニテックビルコン(パイエル)、エタノール、キッチンハイター(花王)、パコマ、アストップ、次亜塩素酸ナトリウム、塩化ベンザルコニウム液、塩素系洗剤(特定なし)

2.7 動物の餌の管理はどのように行っていますか？

(●有効回答数 10、()内は回答数、複数回答)。

冷凍庫(3)、冷蔵庫(3)、常温(専用容器)(5)、常温(飼料袋)(1)、常温(特定なし)(1)、毎日購入(新鮮野菜)(1)、生餌を飼育(1)、

2.8 飼育中、動物の健康状態が悪化したり、死亡したりすることはどのくらいありますか？御社でお取り扱いの動物種についてのみ①～⑤の中から選んで下さい。

表 2-7 飼育中、動物の状態が悪化したり、死亡したりすること

動物種	① 全くない	② 少しある	③ たまにある	④ たびたびある	⑤ ほぼ毎回ある
霊長類	1	4	0	0	0
食肉類	5	1	0	0	0
翼手目	0	0	0	0	1
げっ歯類	3	6	1	1	0
ウサギ目	0	1	1	0	0
その他のほ乳類	2	4	1	0	0
鳥類	2	9	1	0	0
爬虫類	0	4	1	1	0
その他の動物	1	4	0	0	0

*会社の輸入業務として取り扱っていない動物種であっても、輸入時の支援業務等のみを担当する場合がありますため、本問の回答総数は 1.3 と異なる場合があります。

2.9 飼育中、動物の健康状態が悪化した場合の対処方法を教えて下さい(該当するものすべてを選んで下さい)。

(●有効回答数 14、()内は回答数、複数回答)。

- ①獣医師に診察を依頼する(10)
- ②自分たちの判断で治療(投薬等)を行う(10)
- ③保健所に連絡する(0)
- ④特に対策をとらない(0)
- ⑤その他 (2)

その他の記述欄には、“短期間の飼育であるため健康状態が悪化することがみられない”、“経験に基づき、投薬の必要があれば獣医師に相談の上実施、寄生虫の場合は検査依頼する”との回答があった。

2.10 外国からの到着時や輸送中、飼育中に動物が死亡した場合の死体の処理方法を教えて下さい。(該当するものすべてを選んで下さい)

(●有効回答数 15、()内は回答数、複数回答)

- ①専門の処理業者に依頼する(5)
- ②自分たちで廃棄する(埋却等)(7)
- ③保健所に連絡する(0)
- ④その他 (3)

その他の記述欄には、次の回答があった。“検疫指定動物→到着時死亡の場合、動物検疫所の指示により解剖、焼却、その他の動物は、空港の専門業者に焼却依頼”、“鳥類に関しては、動物検疫所に持ち込む”、“焼却する”。

3. 従業員に対するアンケートの結果

この1, 2年間に、輸入動物の取り扱い時の経験等に関し、下記の質問を行った。

1.1 動物の到着時や輸送中、飼育中に、動物に咬まれたり、ひっかかれたりして傷を受けたことがありますか？(該当するものを一つ選んで下さい)。
1.2 動物の到着時や輸送中、飼育中に、動物に病気をうつされたかもしれない、と感じたことはありますか？(該当するものを一つ選んで下さい)。
1.3 動物の到着時や輸送中、飼育中に、動物のノミ・ダニに被害を受けたかもしれない、と感じたことはありますか？(該当するものを一つ選んで下さい)。
選択肢(共通) ①(全くない)、②(少しある)、③(たまにある)、④(たびたびある)、⑤(ほぼ毎回ある)

設問 1.1～1.3 の回答数を下記に示す。

表 3-1 輸入動物取扱い時の経験

	1.1 咬傷等		1.2 病気感染疑い		1.3 ノミ・ダニ被害疑い	
	通関時	飼育中	通関時	飼育中	通関時	飼育中
有効回答数	44	58	44	58	44	58
① 全くない	41	25	42	54	42	34
② 少しある	3	20	2	4	1	17
③ たまにある	0	8	0	0	1	5
④ たびたびある	0	4	0	0	0	1
⑤ ほぼ毎回ある	0	1	0	0	0	1
未回答*	14	0	14	0	14	0

*通関時についての未回答(14)については、通関業務を担当していないものと思われる。

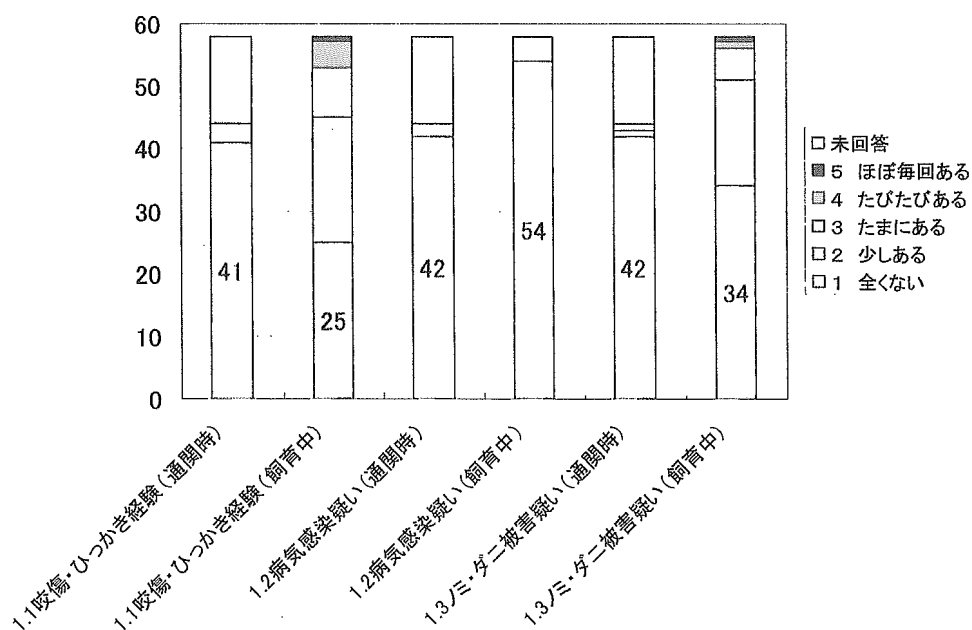


図 3-1 輸入動物取扱い時の経験

1.4 動物に病気をうつされたかもしれないと感じたとき、動物から傷を受けたとき、動物のノミ・ダニなどの被害を受けたときの対処はどのようにしていますか？これらの経験がない場合は、上記のようなことがあった場合、どのように対処するつもりでいますか？(該当するものをすべて選んで下さい)。

(●有効回答数 55、()内は回答数)。

- ①病院の診察を受ける (42)
- ②同僚や上司に相談する(27)
- ③自分たちの判断で治療(薬をのむ、消毒するなど)する(27)
- ④保健所に連絡する(3)
- ⑤特に何もしない(4)
- ⑥その他(5)

記述回答には、“病院へ行った際、動物輸入の仕事をしていると申告の上で診察を受ける”、“特に何もしない”、“市販の薬品にて対処”、“傷口を流水で洗い、消毒する”等があった。

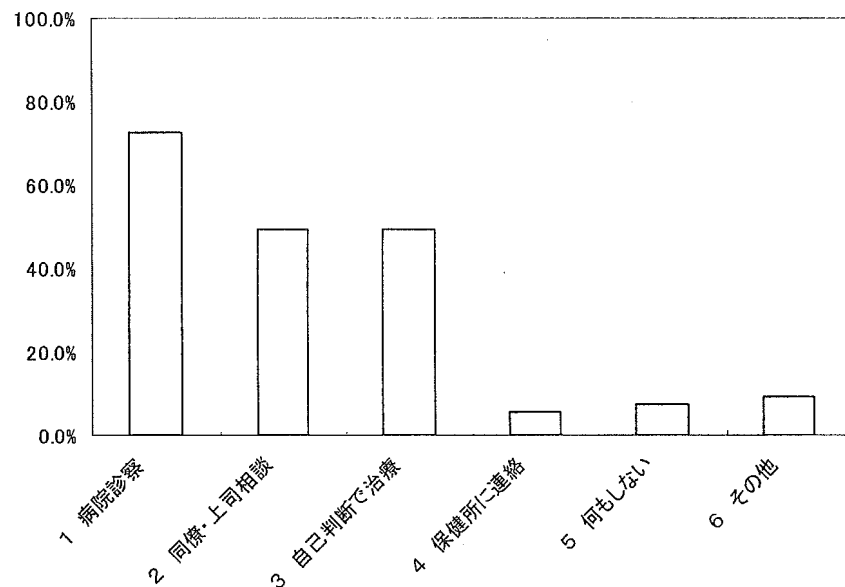


図 3-2 咬傷時、ノミ・ダニ被害、感染疑い時の対処方法(複数回答)

1.5 毎年、健康診断を受診していますか？(該当するものを1つ選んで下さい)。

- (●有効回答数 57、()内は回答数)。
 ①毎年、必ず健康診断を受けるようにしている(31)
 ②健康診断は、なるべく受けるようにしている(13)
 ③健康診断の受診については、あまり気にしていない(13)

1.6 普段の業務の中で、どのようなことを行っていますか？(該当するものをすべて選んで下さい)。

- (●有効回答数 57、()内は回答数)。
 ①動物を取り扱う際の前後には、手洗いを実施する(51)
 ②動物を取り扱うときには、マスクを着用する(13)
 ③動物を取り扱う際には専用の履物を使用する(25)
 ④動物を取り扱う際には、専用作業服を着用する(32)
 ⑤動物を取り扱った後には、うがいをする(24)
 ⑥その他(6)

記述回答には、手の消毒、シャワーの利用、イソジンで手洗いする、といったもののほか、特に何もしていないという回答が3例あった。

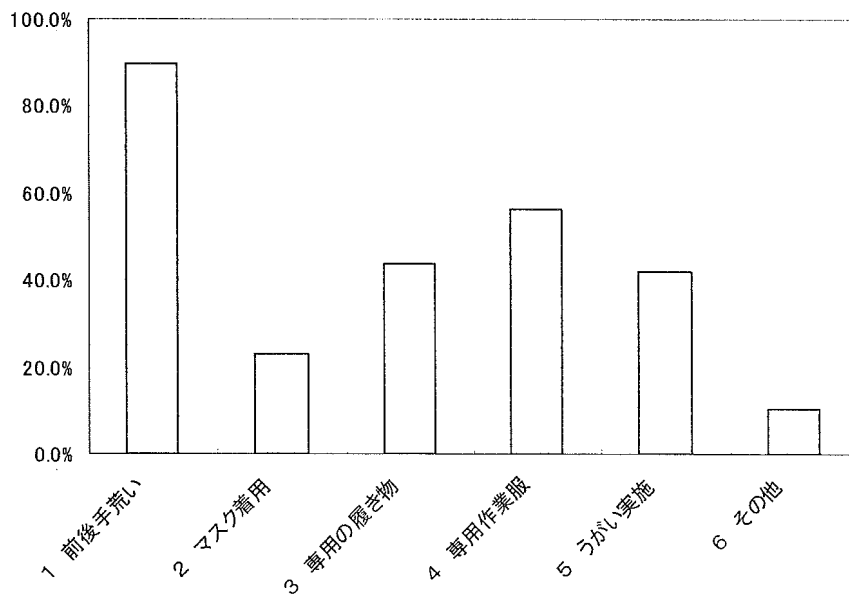


図 3-3 動物取扱い時の実施事項

4. アンケート結果に関する検討等

責任者に対するアンケートでは、n数が15と少ないことから、クロス集計は行わなかった。

従業員に対するアンケートについては、咬傷等の経験有無、病気感染疑い経験有無、ノミ・ダニ被害疑いの経験有無、健康診断に対する意識の程度のそれぞれと病気感染疑い時の各対処方法、動物取扱い時の実施事項とのクロス集計を行った。項目間に有意な関連があるかどうかを検証するため、カイ二乗検定を行った。

その結果、咬傷等の経験有無と専用履物(表 4-1)や専用作業服(表 4-2)の使用有無、及びノミ・ダニ被害疑いの経験有無と専用履物(表 4-3)や専用作業服(表 4-4)の使用有無について有意差がみられた。また、健康診断に対する意識の程度と専用履物(表 4-5)や専用作業服(表 4-6)の使用有無についても有意差がみられた。すなわち、表 4-1～4-6 に示すとおり、動物を取り扱う際に専用の履物を使用すること、作業服を着用することにより、咬傷の経験やノミ・ダニの被害が少なく、一方で健康診断に対する意識は高くなるという結果となった。

動物輸入業者が取り扱う動物種が幅広いことは、その責任者に対するアンケートからも明らかであり、飼育作業時の環境も、扱う動物の特性に応じて異なる状況にあると思われるが、“動物を取り扱う作業の間は専用の何かを着用している”という日頃の習慣が、ノミ・ダニ被害疑いや咬傷等の経験を低減させるだけでなく、健康に対する職場の意識を高めているということにつながっていると考えられた。

また、病気感染疑いの経験有無については、いずれの項目とも有意差がみられなかった。これは、全く経験がないという回答が多いことが影響していると考えられた。

表 4-1 [縦]:咬傷・ひっかき経験(飼育中)－[横]:専用の履物使用(業務中)

	無.(%)	有.(%)	合計(%)
経験無.	6(24.0)	19(76.0)	25(100.0)
経験有.	27(81.8)	6(18.2)	33(100.0)
合計	33(56.9)	25(43.1)	58(100.0)

カイ2乗値(自由度) 19.389(1) p値 0.00001
 イエーツのカイ2乗値(自由度) 17.103(1) p値 0.00004

表 4-2 [縦]:咬傷・ひっかき経験(飼育中)－[横]:専用作業服使用(業務中)

	無.(%)	有.(%)	合計(%)
経験無.	4(16.0)	21(84.0)	25(100.0)
経験有.	22(66.7)	11(33.3)	33(100.0)
合計	26(44.8)	32(55.2)	58(100.0)

カイ2乗値(自由度) 14.764(1) p値 0.00012
 イエーツのカイ2乗値(自由度) 12.786(1) p値 0.00035

表 4-3 [縦]:ノミ・ダニ被害疑い(飼育中)―[横]:専用の履物使用(業務中)

	無.(%)	有.(%)	合計(%)
経験無.	14(41.2)	20(58.8)	34(100.0)
経験有.	19(79.2)	5(20.8)	24(100.0)
合計	33(56.9)	25(43.1)	58(100.0)

カイ2乗値(自由度) 8.280(1) p値 0.00401
 イエーツのカイ2乗値(自由度) 6.803(1) p値 0.00910

表 4-4 [縦]:ノミ・ダニ被害疑い(飼育中)―[横]:専用作業服使用(業務中)

	無.(%)	有.(%)	合計(%)
経験無.	9(26.5)	25(73.5)	34(100.0)
経験有.	17(70.8)	7(29.2)	24(100.0)
合計	26(44.8)	32(55.2)	58(100.0)

カイ2乗値(自由度) 11.195(1) p値 0.00082
 イエーツのカイ2乗値(自由度) 9.473(1) p値 0.00208

表 4-5 [縦]:健康診断―[横]:専用の履物使用(業務中)

	無.(%)	有.(%)	合計(%)
必ず受診.	11(35.5)	20(64.5)	31(100.0)
なるべく受診	9(69.2)	4(30.8)	13(100.0)
気にしない	12(92.3)	1(7.7)	13(100.0)
合計	32(56.1)	25(43.9)	57(100.0)

カイ2乗値(自由度) 13.183(2) p値 0.00137

表 4-6 [縦]:健康診断―[横]:専用作業服使用(業務中)

	無.(%)	有.(%)	合計(%)
必ず受診.	9(29.0)	22(71.0)	31(100.0)
なるべく受診	7(53.8)	6(46.2)	13(100.0)
気にしない.	9(69.2)	4(30.8)	13(100.0)
合計	25(43.9)	32(56.1)	57(100.0)

カイ2乗値(自由度) 6.693(2) p値 0.03521

アンケート調査(動物輸入業者) 責任者の方へ

厚生労働省新興再興感染症研究事業
「輸入動物に由来する新興感染症侵入防止に関する研究」班
主任研究者 東京大学教授 吉川泰弘

会社名 _____

責任者名 _____

この1, 2年間の状況につきまして、下記の質問にお答え頂けますようお願いいたします。

1. 最初に、御社の概要についてお伺いいたします。

1.1 御社の社員数は何人ですか？

()人

1.2 御社の社員の中で、業務として日常的に動物に接触される方は何人いますか？

()人

1.3 御社で取り扱っておられる輸入動物種(この1, 2年間)について、該当するものに○をつけて下さい。

取り扱う動物種		取り扱い 有り	取り扱い 無し
ほ 乳 類	サル目(霊長類)	()	()
	食肉類(ネコ目*)	()	()
	翼手目	()	()
	げっ歯類	()	()
	ウサギ目	()	()
	その他のほ乳類: 記入をお願いします ()	()	()
鳥類		()	()
爬虫類		()	()
そ の 他 の 動 物	具体的に記入をお願いいたします。 〔)	()	()

*現在、Carnivora はネコ目と表記されます

1.4 御社で取り扱う動物に対する飼育中の健康管理はどのように行っていますか？(該当する番号をすべて選んで下さい。)

- ①専任の獣医師により管理を行っている
- ②獣医師以外の専任者をおいて、管理を行っている
- ③外部の獣医師等に依頼して行っている
- ④あらかじめ決まった投薬等を行っている
- ⑤健康管理は行っていない (理由: _____)

ご回答(_____)

1.5 動物の受け入れや飼育に関わる従業員の方々は健康診断を受けていますか？(該当する番号を1つ選んで下さい)

- ①健康診断は、毎年必ず受けている
- ②健康診断を受けるよう、会社から指導している
- ③健康診断の受診については、個人の判断にまかせている
- ④特に何もしていない

ご回答(_____)

1.6 動物を取り扱う従業員の方々への指導としてどのようなことを行っていますか？(該当する番号をすべて選んで下さい)

- ①動物を取り扱う前後には、手洗いを実施すること
- ②動物を取り扱うときは、マスクを着用すること
- ③動物を取り扱うときは、専用の履物を使用すること
- ④動物を取り扱うときは、専用作業服を着用すること
- ⑤動物を取り扱った後には、うがいを実施すること
- ⑥その他 記載をお願いします(_____)

ご回答(_____)

2. 次に、外国から輸入した動物やその動物の状況等に関してお伺いいたします

2.1 外国からの到着時、健康に異常があったり、死亡したりする動物はどのくらいいますか。御社でお取り扱いの動物種についてのみ①-⑤の中から選んで下さい。

動物種	外国からの到着時、健康に異常があったり、死亡したりすること	ご回答
霊長類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
食肉類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
翼手目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
げっ歯類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
ウサギ目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他のほ乳類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
鳥類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
爬虫類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他の動物	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()

2.2 外国からの到着時、検疫等の証明書(健康証明書等を含む)が添付されている動物はどのくらいいますか?御社でお取り扱いの動物種についてのみ①-④の中から選んで下さい。

動物種	外国からの到着時、検疫などの証明書(健康証明書等を含む)が添付されている	ご回答
霊長類	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
食肉類	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
翼手目	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
げっ歯類	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
ウサギ目	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
その他のほ乳類	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
鳥類	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
爬虫類	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()
その他の動物	①全くない ②少しいる ③多い ④ほぼ全部	()

2.3 外国からの到着時、動物にノミやシラミ、ダニなどがついている場合がありますか?あるとすればどのくらいですか?御社でお取り扱いの動物種についてのみ①-⑤の中から選んで下さい。

動物種	外国からの到着時、動物にノミやシラミ、ダニなどがついていること	ご回答
霊長類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
食肉類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
翼手目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
げっ歯類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
ウサギ目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他のほ乳類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
鳥類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
爬虫類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他の動物	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()

2.4 外国からの到着時や輸送中、飼育中に動物が逃亡することはありますか?御社でお取り扱いの動物種についてのみ①-⑤の中から選んで下さい。

動物種	到着時や輸送中、飼育中に動物が逃亡すること	ご回答
霊長類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
食肉類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
翼手目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
げっ歯類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
ウサギ目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他のほ乳類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
鳥類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
爬虫類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他の動物	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()

2.5 動物は平均してどのくらい飼育していますか？御社でお取り扱いの動物種についてのみ記入をお願いします。

	ご回答
記入例： ○○類	(2) (日 週・ヶ月) 位
霊長類	() (日・週・ヶ月) 位
食肉類	() (日・週・ヶ月) 位
翼手目	() (日・週・ヶ月) 位
げっ歯類	() (日・週・ヶ月) 位
ウサギ目	() (日・週・ヶ月) 位
その他の ほ乳類	() (日・週・ヶ月) 位
鳥類	() (日・週・ヶ月) 位
爬虫類	() (日・週・ヶ月) 位
その他の 動物	() (日・週・ヶ月) ~ () (日・週・ヶ月) 位

2.6 動物を飼育するケージや施設に関しては、どのような洗浄・消毒方法をとっていますか？

(具体的に記載して下さい)

2.7 動物の餌の管理はどのように行っていますか？

(具体的に記載して下さい)

2.8 飼育中、動物の健康状態が悪化したり、死亡したりすることはどのくらいありますか？御社でお取り扱いの動物種についてのみ①－⑤の中から選んで下さい。

動物種	飼育中、動物の状態が悪化したり、死亡したりすること	ご回答
霊長類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
食肉類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
翼手目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
げっ歯類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
ウサギ目	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他のほ乳類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
鳥類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
爬虫類	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
その他の動物	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()

2.9 飼育中、動物の健康状態が悪化した場合の対処方法を教えてください(該当するものをすべて選んで下さい)。

- ①獣医師に診察を依頼する
- ②自分たちの判断で治療(投薬等)を行う
- ③保健所に連絡する
- ④特に対策をとらない
- ⑤その他 記載をお願いします()

ご回答()

2.10 外国からの到着時や輸送中、飼育中に動物が死亡した場合の死体の処理方法を教えてください。(該当するものをすべて選んで下さい)

- ①専門の処理業者に依頼する
- ②自分たちで廃棄する(埋却等)
- ③保健所に連絡する
- ④その他 記載をお願いします()

ご回答()

3. 最後に、御社において、日常の業務として動物を取り扱っている社員の方々の健康調査(アンケートおよび 10cc 程度の採血)にご協力頂き、感染症にかかわる抗体検査を実施させて頂きたいと考えております。もちろん医学倫理上の規定にのっとり、しかるべき倫理委員会にて本計画が審査・承認された後、対象者には適切なインフォームドコンセントを行った上で実施いたす所存です。また、得られた結果に関しましては、協力戴いた方々へのフィードバックを可能な限り行いたいと考えております。結果の公表に関しましては、プライバシーに配慮し、個人の特典等ができない集計方法で行います。

本計画に関しまして、御社としてのお考えをお聞かせいただければ幸いです。

- ①協力してもよい
- ②社員本人が同意すれば会社として協力してもよい
- ③社員の意思にかかわらず、会社としては協力できない
- ④その他

(具体的に記載して下さい)

ご回答(_____)

質問は以上です。

ご協力、誠にありがとうございました。

厚生労働省新興再興感染症研究事業
「輸入動物に由来する新興感染症侵入防止に関する研究」班
主任研究者 東京大学教授 吉川泰弘

アンケート調査(動物輸入業者) 動物を取り扱う従業員の方々へ

会社名 _____

1. 最初に、この1, 2年間のことを振り返って頂き、外国から輸入した動物の取り扱いに関して、下記の質問にお答えいただけますようお願いいたします。

1.1 動物の到着時や輸送中、飼育中に、動物に咬まれたり、ひっかかれたりして傷を受けたことがありますか？(該当するものを一つ選んで下さい)。

	外国から輸入した動物に咬まれたり、ひっかかれたりして傷を受けたことがある	ご回答
通関時	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
飼育中	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()

1.2 動物の到着時や輸送中、飼育中に、動物に病気をうつされたかもしれない、と感じたことはありますか？(該当するものを一つ選んで下さい)。

	外国から輸入した動物に病気をうつされたかもしれない、と感じたことがある	ご回答
通関時	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
飼育中	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()

1.3 動物の到着時や輸送中、飼育中に、動物のノミ・ダニに被害を受けたかもしれない、と感じたことはありますか？(該当するものを一つ選んで下さい)。

	外国から輸入した動物のノミ・ダニに被害を受けたかもしれない、と感じたことがある	ご回答
通関時	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()
飼育中	①全くない ②少しある ③たまにある ④たびたびある ⑤ほぼ毎回ある	()

1.4 動物に病気をうつされたかもしれないと感じたとき、動物から傷を受けた時、動物のノミ・ダニなどの被害を受けた時の対処はどのようにしていますか？これらの経験がない場合は、上記のようなことがあった場合、どのように対処するつもりでいますか？(該当するものをすべて選んで下さい)。

- ①病院の診察を受ける
- ②同僚や上司に相談する
- ③自分たちの判断で治療(薬をのむ、消毒するなど)する
- ④保健所に連絡する
- ⑤特に何もしない
- ⑥その他

(具体的に記載して下さい)

1.5 毎年、健康診断を受診していますか？（該当するものを1つ選んで下さい）

- ①毎年、必ず健康診断を受けるようにしている
- ②健康診断は、なるべく受けるようにしている
- ③健康診断の受診については、あまり気にしていない

ご回答(_____)

1.6 普段の業務の中で、どのようなことを行っていますか？（該当するものをすべて選んで下さい）

- ①動物を取り扱う際の前後には、手洗いを実施する
- ②動物を取り扱うときには、マスクを着用する
- ③動物を取り扱う際には専用の履物を使用する
- ④動物を取り扱う際には、専用作業服を着用する
- ⑤動物を取り扱った後には、うがいをする
- ⑥その他 記載をお願いします(_____)

ご回答(_____)

2. 本研究の一環として、日常の業務において動物を取り扱っている皆様の健康調査(10cc 程度の採血)にご協力頂き、感染症にかかわる抗体検査を実施させて戴きたいと考えております。

当然のことながら医学倫理上の規定にのっとり、しかるべき倫理委員会にて本計画が審査・承認された後、皆様に十分な説明を行って、ご同意を頂いた上で実施いたす所存です。また、得られた結果に関しましては、可能な限りお知らせし、皆様の今後の健康管理に役立てていただけるようにしたいと考えております。本研究結果の公表に関しましては、プライバシーに配慮し、個人の特典等ができない集計方法で行います。

このような健康調査(血液のご提供)にご協力いただくことに関しまして、皆様の現在のお考えをお聞かせいただければ幸いです。どうかよろしくお願ひ致します。

(この質問への回答は、あくまで現在のお考えをお伺いするものであり、必ず協力をしなければならぬということにはなりません)。

- ①協力してもよい
- ②納得できる説明があれば協力してもよい
- ③絶対協力したくない
- ④その他

(具体的に記載して下さい)

ご回答 (_____)

質問は以上です。

ご協力誠にありがとうございました。

厚生労働省新興再興感染症研事業
「輸入動物に由来する新興感染症侵入防止に関する研究」班
主任研究者 東京大学教授 吉川泰弘

輸入動物追跡システムの製作について

(株) 東レリサーチセンター

1. 概要

動物輸入業者が、輸入した動物に関して、その数や状態、流通先等の情報を入力・記録するシステムの設計・製作を行った。昨年度においては、輸入業者が所有するスタンドアロンの端末にインストールするプログラムとして製作を行ったが、本年度はその際に得られた意見等を参考に改良を加え、専用のサーバーを構築してインターネット上で運用する方式とした(図 1-1)。

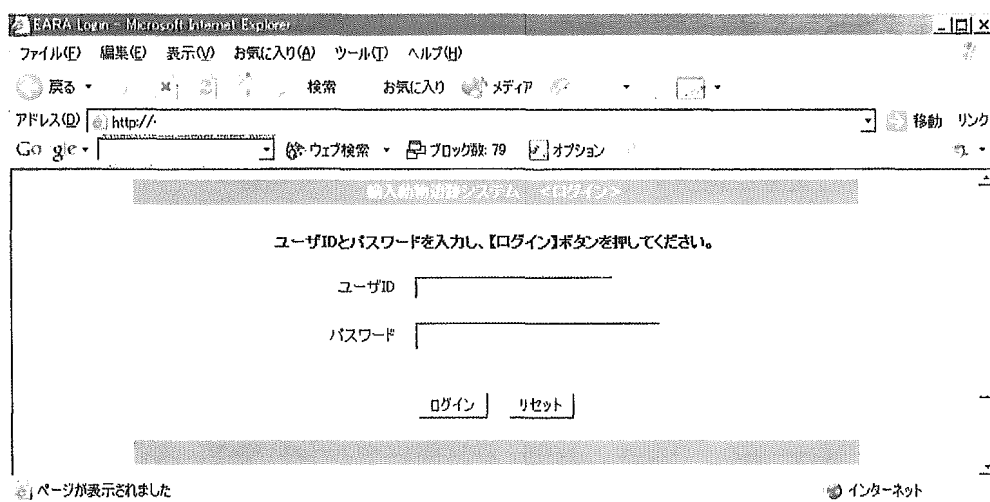


図 1-1 輸入動物追跡システムの入り口

本システムは、インターネットを利用することにより、パソコンの機種やOSに依らず、業者それぞれが個別に情報の記録を行うことができ、一方でシステム管理者は、システムや情報の管理を一元的に実施することができるという長所がある。すなわち、管理者は人獣共通感染の予防上重要と思われる動物の種類やその原産国の設定（あるいは変更）や、入力済データを閲覧を随時行うことが可能となった。

本システムは、平成 15 年末までに製作と試行を行い、平成 16 年 1 月より運用を開始した。以降、システムの運営・管理を実施中である。

2. 輸入動物追跡システムの画面例

本システムにログインすると、図 2-1 に示す画面が表示される。

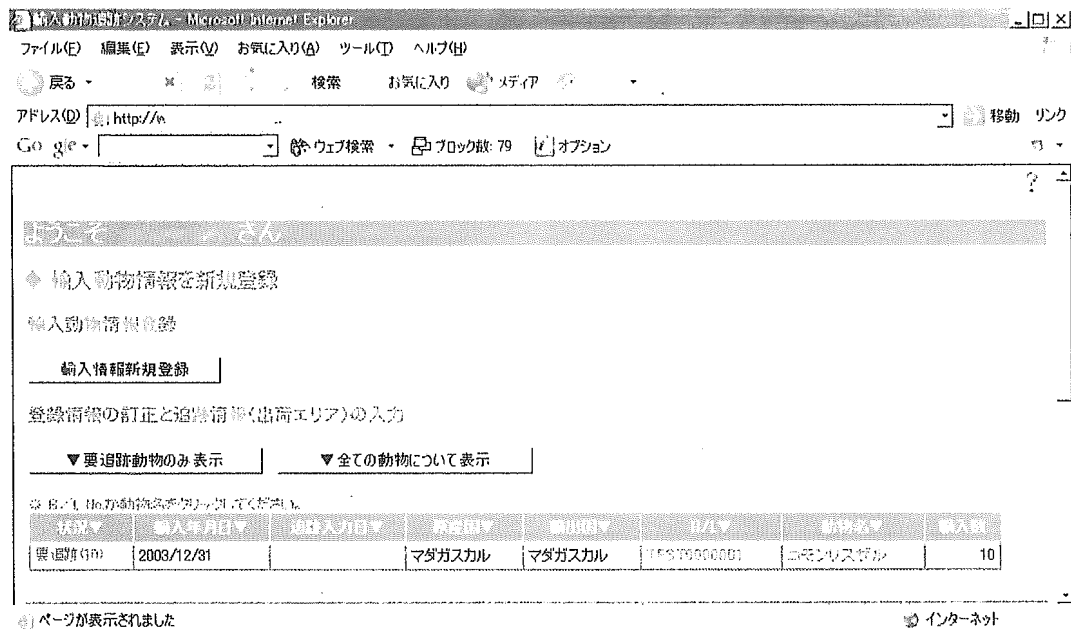


図 2-1 メイン画面例

このメイン画面においては、4ヶ月以内に輸入した動物の一覧がリスト表示され、出荷情報（追跡情報）の入力が必要なものについては、赤字で表示し、業者に入力を促すような仕組みとしている。

新規動物輸入情報の入力画面の例を図 2-2 に示す。輸入に関する基本情報や動物名、輸入時の死亡有無、健康証明書有無等を入力するようになっている。ここで動物名を入力する場合は、和名、英名、学名のいずれかの一部を入力すると、これまでに蓄積された動物リストが検索され、リストにあるものであればワンクリックで全情報が一度に入力できるようになっている。リストにない動物の場合は、ユーザー自身で動物リストに動物名を追加登録することが必要であるため(図 2-3)、輸入された動物名は、基本的にこのリストの中に蓄積されていくこととなる。

輸入・出荷情報は、システム管理者のみが CSV 形式でダウンロードすることが可能であり、エクセル、アクセス等を用いて加工することができる。

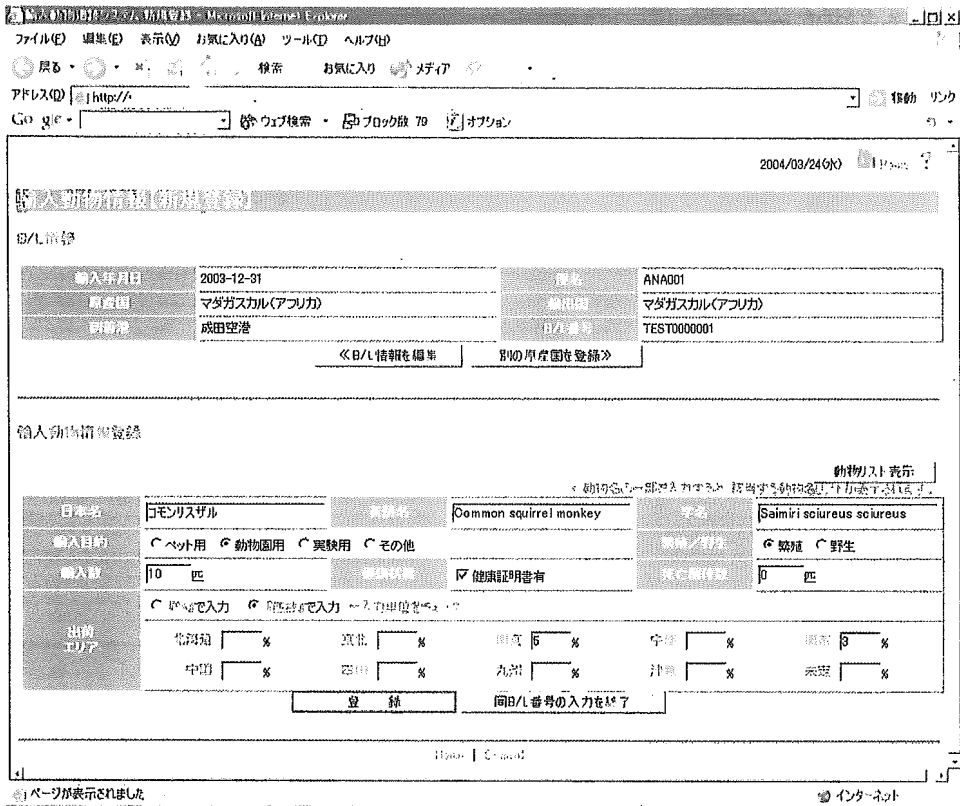


図 2-2 輸入動物情報[新規登録]登録の例

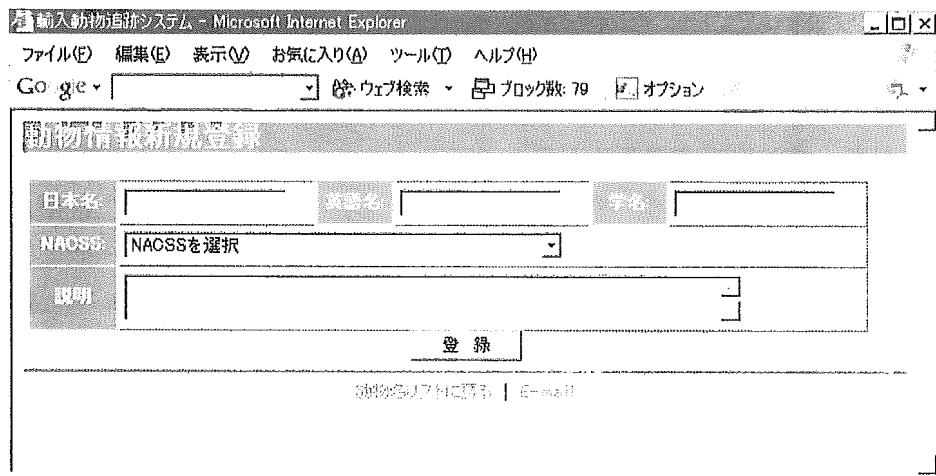


図 2-3 動物リストの新規登録画面

陸上動物の健康に関する規約 2003

目次

第 1 部 総則

- 1.1. 一般的定義と動物の疾病に関する通知
 - 1.1.1. 一般的定義
 - 1.1.2. OIE リスト A およびリスト B の疾病
 - 1.1.3. 通知と疫学的情報

- 1.2. 国際貿易における責務と倫理
 - 1.2.1. 一般的責務
 - 1.2.2. 証明手続

- 1.3. 輸入のリスク分析
 - 1.3.1. 総論
 - 1.3.2. リスク分析のための指針
 - 1.3.3. 行政機関(Veterinary Services)の質の評価
 - 1.3.4. 行政機関(Veterinary Services)の質の評価のための指針
 - 1.3.5. 動物の健康状態の違いによる、地域の画定(zoning)
 - 1.3.6. 動物の健康に関するサーベイランスとモニタリング
 - 1.3.7. 防疫戦略の同等性評価を達成するための指針

- 1.4. 輸入 / 輸出手続
 - 1.4.1. 輸送に関する勧告
 - 1.4.2. 出発前および出発時に適用可能な、動物の健康に関する措置
 - 1.4.3. 輸出国の出発地から輸入国の到着地までの輸送の間に適用可能な、動物の健康に関する措置
 - 1.4.4. 輸入国の国境標と検疫所